

Page 10 - Chapter 0

Sentence 1

在社交网络中，人类获得了一个去中心化的神经系统 由众人共享的系统。谁控制了它的神经末梢，谁就掌握了关于人们的一切。

ソーシャルネットワークにおいて、人類は分散型神経系を獲得した 多くの人が共有するシステムを。その神経末端を支配する者は、人々についてすべてを知ることになる。

Sentence 2

带有兴趣爱好、个人经历、照片、播放列表的个人资料本身就是一种表达和身份认同。

興味、経歴、写真、プレイリストを含むプロフィールは、それ自体が表現であり、アイデンティティとなった。

Sentence 3

社交网络是由代码的主人而非用户控制的中枢神经系统。这些主人是谁，他们有什么特质，想要什么，追求什么？

ソーシャルネットワークは、ユーザーではなくコードの主人によって制御される中枢神経系だ。これらの主人は誰か、どのような資質を持ち、何を望み、何を狙っているのか？

Sentence 4

一年前，《名利场》杂志出版了一期关于新权贵的专刊。完全可以把它命名为《书呆子掌控的世界》。

一年前、ヴァニティ・フェア誌は新しいエスタブリッシュメントについての号を出した。「ナードが支配する世界」というタイトルでも良かっただろう。

Sentence 5

互联网给了那些被女孩们嘲笑、被小混混欺负的人一个机会 征服世界，使其变得理性而有序。
インターネットは、女の子たちにクスクス笑われ、ゴブニキにいじめられていた者たちに、世界を征服し、理性と秩序をもたらす機会を与えた。

Sentence 6

书呆子们获得了最强大的武器，他们发现代码可以不通过中间人改变世界。按下回车键 一切都
将不同。

オタクたちは最も強力な武器を手に入れ、コードが仲介者なしに世界を変えられることを発見した。
キーを押せば もう二度と同じではない。

Sentence 7

世界试图抓住我，但没有成功， 哲学家格里戈里 斯科沃罗达写道。书呆子们抓住了世界，而帕维尔 杜罗夫似乎是这支暗夜军队的典型将军。

「世界は私を捕まえようとしたが、捕まえられなかった」と哲学者グリゴリー・スコヴォロダは書いた。ナードたちは世界を捕まえ、パーヴェル・ドゥーロフはこの夜の軍隊の典型的な将軍のように見えた。

Sentence 8

直到我被四面八方的人推荐后，他才在网络聊天软件里回复说，他不想接受《福布斯》的采访，因为他对钱不感兴趣。

文字通り四方八方から推薦されて初めて、彼はインターネットメッセンジャーで、フォーブスのインタビューを受けたくない、お金には興味がないと返事をした。

Translator Notes

- Page 10 continues author's philosophical reflection and begins explaining how the book came to be
- CNS (■■■■) = Central Nervous System - metaphor for social networks
- Gopniks (■■■■■■■■) - Russian street thugs who bully intellectuals
- Grigory Skovoroda - 18th century Ukrainian philosopher, his epitaph quote used metaphorically
- Vanity Fair New Establishment list - annual ranking of tech/media power brokers
- The 'army of the night' - poetic reference to programmers working late hours